

平成 26 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会 がん政策部会

日 時 : 平成 26 年 7 月 31 日 (木) 18:00~20:10

場 所 : 琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構成員 : 11 名

出席者 : 10 名

埴岡 健一 (東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット)、天野 慎介 (一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン)、東 尚弘 (国立がん研究センターがん対策情報センター)、井岡 亜希子 (地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立成人病センター)、笹良 剛史 (友愛会南部病院、緩和ケア部会長)、宮国 孝男 (那覇市立病院、研修部会副会長)、石郷岡 美穂 (琉球大学医学部附属病院、相談支援部会副会長)、佐村 博範 (琉球大学医学部附属病院、地域ネットワーク部会長)、増田 昌人 (琉球大学医学部附属病院 がんセンター)、仲本 奈々 (琉球大学医学部附属病院 がん登録部会副会長)、

欠席者 : 長井 裕 (琉球大学医学部附属病院、普及啓発部会長)

陪席者 : 呉屋 葉子 (琉球大学医学部附属病院)

[確認事項]**(1) 委員一覧**

増田副部会長より、委員の紹介および本日の部会の出欠者について、報告があった。

(2) 平成 26 年度第 1 回がん政策部会議事要旨の確認

増田副部会長より、平成 26 年度第 1 回がん政策部会議事要旨について報告があり、承認された。

(3) 第 3 回部会の日程について

増田副部会長より、次回の開催は、11 月 13 日 (木) 18:00 から、琉大病院がんセンターで行うことが報告された。

[審議事項]**(1) 「政策部会」の年間カレンダーについて、****(2) 「沖縄県がん診療連携協議会」の年間カレンダーについて**

増田副部会長より、資料 3 に基づき、沖縄県がん診療連携協議会各種会議の年間サイクルについて、国や県の予算編成を考慮した、連携協議会の 1 回~4 回までの議題のスケジュール案の説明があり、各部会、協議会に提案する議題を、協議会の 3 ヶ月前には協議してはどうかと提案があった。

埴岡部会長より、「政策部会」と「沖縄県がん診療連携協議会」年間カレンダーについて、意見を伺いたいと依頼があり、天野副部会長より、次年度以降、県の予算等に具体的なアクションする場合、施策提案は協議会名とするのかと質問があり、増田副部会長より、協議会に医療保健部長や統括監が出席することになったので、提案書などを出すことになるだろうと回答があった。

天野副部会長より、沖縄県がん診療連携協議会年間カレンダーの連携協議会にも重要事項 (施策

提案)と記述があれば分かりやすいという意見があった。

井岡委員より、協議会の下にある、政策部会と他の部会との関係性が分からない。政策部会は他の部会を調整するところなのかと質問があり、増田副部長より、各部長が参加しているので、提案書や予算など全体として政策をこしらえるところかと思うと意見あった。

埴岡部長より、政策部会は各部会を束ねたり、ニーズを引き出して、連携協議会にあげればファシリテートになるが、政策部会がボトルネックにならないよう、各部会がダイレクトに扱えるものは扱い、調整すべきものは関与するなど、連携協議会事務局の増田先生がうまく振り分けてはどうかと意見があった。

井岡委員より、PDCA サイクルやアクションプランを考えた場合に、他の部会が計画にある分野を網羅しているので、各部会がアクションプランを立て評価し、予算を立てる。政策部会は全体を見渡し、例えば総論の指標、全体の進捗、死亡の動向など全体の総論の進捗の評価、必要な予算などを立てて行くなど、政策部会は前面に出ないで事務局的な位置づけがいいのではないかと意見があった。

佐村委員より、政策部会の仕事内容は調整役というのが適切などころではないかと意見があった。

埴岡部長より、事務局の方で政策部会と各部会の関係についてメモ書きのものを作成してはどうかと提案があり、増田副部長より、事務局で「がん政策部会とは」、「がん政策部会と各部会の関係について」のメモを作成しメールするのでご意見を頂きたいと依頼があった。

年間カレンダーについては、スケジュールを簡素化したものを明日の協議会に提案することとなった。

(3) 7つの専門部会の所掌、枠組み、再編成について

増田副部長より、沖縄県がん診療連携協議会が始まって6年になり、専門部会も6年経ったことから、部会の業務や方向性を見直しについて提案があり、国や県のがん計画とすり合わせて、それぞれの部会でカバーしている所、カバーした方がいい所を○△にて資料4に示しているので、意見を頂きたいと依頼あった。

埴岡部長より、PDCAを強化していくための前提として、重要な空白地点があるかどうか、各部長含めて所掌分担のゾーンディフェンス変更について意見を伺いたいとのことだった。

各部会よりそれぞれカバーできる範囲、出来ない範囲について報告があった。

天野副部長より、県計画の「(4)がん医療対策①がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成及び確保」について、がん政策部会しか該当していないことになっているが、かなり重要な施策なので、がん政策部会だけではカバーできないので何らかの対応が必要であること、がん登録に関しては情報提供の側面もあるので、その部分もチェックを入れて頂きたいと意見があった。

佐村委員より、計画の全てに関わることは出来ないのではないかと。出来ることとやらなければならないことを沖縄県の計画に立ててもらってその中をカバーしてはどうかと意見があった。

埴岡部長より、「第4 分野別施策と個別目標」と「第5 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項」は必ず2重丸のところが必要であり、所掌しているということはアウトカム指標の結果を引き受けられるという観点が必要となると意見があった。

東委員より、検診・早期発見について、普及啓発の受診率が△なだけで、検診には色んなことがあり、精度管理を同時にやらないと受診率だけを上げてその後何もなかったら問題ではないかと意

見があり、増田副部長より、協議会が出来た時に予防と早期発見に関しては、基本的にはカバーしてない方向と事務局では取ったので、部会でも精度管理を含めて関知していない。普及啓発部会では、対象を教育とメディアの2つに絞り込んで、その一環としてポスターコンテストで検診を推奨しているとのことだった。

埴岡部会長より、予防と早期発見において、拠点病院の指定要件になってなければ、空白で合っても問題ないのか。連携協議会がちゃんとした分野として予防早期発見を分担していくなら、人員配置や予算配分を含めた大きな所掌範囲で、大きな方針展開になると思われることから、議論するなら次回以降にしてはどうかと提案があった。

井岡委員より、小児がんについて、小児がんは成人のがんとは異なるのでその部会は立ちあげないのかと質問があり、埴岡部会長より、私見だが、部会を増やすことは考えず必要な審議があれば本協議会直結のプロジェクトチームか既にある部会でスペシャルチームを作り見解をだすなどしてはどうかと提案があった。

相談支援部会 石郷岡副部長より、「第2 重点的に取り組むべき課題で 1.放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とこれらを専門的に行う医療従事者の育成」で相談支援部会が△になっているのはなぜかと質問があり、相談支援部会の△は取ることとなった。また、「第5 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項 3.関係者等の意見の把握」は、相談支援部会ではなく地域ネットワーク部会となった。

がん登録部会 仲本副部長より、「第5 2.都道府県による都道府県計画の策定」について、6つの部会でがん登録部会だけが△になっていることについて質問があり、増田副部長より、データ提供、情報取りまとめはがん登録部会ですて頂きたいとのことだった。がん登録部会 仲本副部長より「6.目標の達成状況の把握とがん対策を評価する指標の策定」について、がん登録部会は実務者だけなので、構成員を検討しないといけないと意見があった。

埴岡部会長より、「4-1-(1)放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進」、「4-1-(2)がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成」、「4-1-(5)医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組について」の3つの分野をまとめて医療部会が必要なのではないか。「2.がんに関する相談支援と情報提供」について、相談支援は相談支援部会があるが、情報提供は各部会でそれぞれ宿題。「3.がん登録」はがん政策部会が今後 PDCA の指標を見て、枠組みコーディネートを行う。情報を集める機能はがん登録部会が行う。情報提供のパイプラインの連携と所掌に関して課題があると言える。「7.小児がん」医療部会が引き受けるかたちが必要。「8.がんの教育・普及啓発」予防と早期発見はやらないが、教育普及啓発が何か、普及啓発部会は何をするかが課題。「9.がん患者の就労を含めた社会的な問題」は相談支援部会が引き受けるのか議論が必要。「第5 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項」については、PDCA や計画との提案との連結など政策部会に○が付いているが自覚してやっつけていけるか。いくつかの課題の候補は出たと思うが、必要であれば継続的に考え、合意が得られれば協議会で継続的にその作業を進めて行くことを報告し承認して頂く方向にしてはどうかと提案があった。

増田副部長より、第4と第5について、メインで見る部会を決めてはどうか。今すべて決めるのは難しいと思うので、メールにてレスポンスを確認してはどうかと提案があった。

明日の協議会に専門部会の見直しについて提案することとなった。

(4) 沖縄県がん計画のロジックモデル化／指標マップ化について、

(5) 沖縄県がん計画の「中間評価のための指標」の作成について

増田副部長より、資料5に基づき、前回のがん政策部会の議論をうけて、計画と中間評価、評価指標を作っていくことになったが、最終アウトカム、中間アウトカム、初期アウトカム、アウトプットで考えて行きたい。国・県計画・協議会の計画を表にまとめたので、それをそれぞれ分野ごとにロジックモデル化し、どうかたちで評価指標を作成し中間評価をしていくか、3年後の第2期計画の最終評価につなげるかを検討したいと提案があった。

埴岡部長より、2016年6月には中間評価に終わっていただけないため、秋頃までには指標をきめ、春頃から1年間計らなければいけない。所掌範囲の指標を決めたり、モニターするのは、政策部会となっているので早々に指標の案をだして、各部会の関係者に指標がとれるのか、必要であれば県に予算をお願いするのを進めてないといけない。新・指標のマップのテンプレートがあるので、部会で埋めて仕上げる作業をここ数カ月でやらなければいけない。参考までに緩和ケア分野で国、県、協議会で作成したことが報告され、今後の作業プロセス案として、アクションプラン全体を見直し、地域の現況を把握、これまでの施策の評価、現場や患者、地域の要望を振り返り、他県の好事例を洗い出すなど、前作業があつて、国、県、協議会の現状指標マップを作った上で、バージョンアップした新指標マップを作成し、各部会の指標を集めるチームを形成する。一連の作業を3ヶ月ぐらいでやらなければならぬので、審議したいのは、取りまとめの形が先ほど提案したフォーマットでいいのか。3ヶ月でやることのプロセス必要な体制と資源をどうするかについて意見を伺いたいと依頼があった。

東委員より、今回、指標は中間アウトカム、分野アウトカム、アウトプットと全部図って行こうということなのか。軸足はどこにあるのかと質問があり、埴岡部長より、アウトカム指標を重視し、分野アウトカムと中間アウトカム指標をコア指標として決め、連携協議会でその都度出たアウトカム指標を報告する。アウトプット指標は押し付けず、それぞれ予算を使う時には計測して報告を頂いてはどうかと提案があった

東委員より、アウトカム指標はなかなか計りづらいのでその辺はよし悪しを考えながらやったほうがいいのかと思うと意見があった。

井岡委員より、大阪の場合は死亡率をさげることに着目しており、死亡率に関連して、がん登録や喫煙率、検診受診率、早期診断割合を見て行くが、予算がないため、既にあるデータを活用して、独自の調査はせずに評価していく。国が調査するなら、県ごとのを使ってはどうかと意見があった。

東委員より、あるものについては使える。患者アンケートについては県単位でnが異なるが、例えばレセプトなどから出すものについては県単位に出せるとのことだった。

埴岡部長より、国の指標セットを参照して行きながら、埋めるものは埋め、空いているもので必要なものを探して考えていくのがひとつ。ロジックモデル作って指標をつくるのは政策評価からのアプローチだと思うが、政策体系をはずして、アウトカムをモニタリングする発想も有効だが、施策をやるべきかやらざるべきか両方していくべきと思うと意見があった。

井岡委員より、特に全体で、どのぐらい死亡が下がっているか何が影響しているかなど、政策部会が担当しないといけないかと思うと意見があった。

東委員より、国の患者調査で今計画があるのは、県拠点から患者100人、地域拠点を1つ選んで100人と決まっているが、もし、追加して希望があるのなら同じ実費を払ってやって頂くことは出

来るとのことだった。

増田副部長より、指標についてやりやすい部会とやりづらい部会がでていくので、やりづらい部会には相談し一緒にやっていく作業が必要であり、開催数も異なるので締切日に関しても、事務局で頑張る必要があるかと思うと意見があった。

埴岡部会長より、指標マップの雛型に落としとしてまとめることや今後の指標マップ作成プロセスは基本的に各部会が主体となってい、事務局がサポートする。作業プロセスは、出来るだけ現況指標をみたり、宿題となっていた課題を盛り込んだり、国やその他の指標マップを参考に作成する。指標計測に必要な体制と資源などについては、各部会から上がってきた指標にかかる体制や資源などに関しては、事務局で取りまとめて合算して国のものに乗ったり、他県と共同プロジェクトとしてやるなど連携コーディネートをして頂く。指標を作っていくことについて、政策部会、各部会、協議会の役割分担を踏まえた、3ヶ月の日程進行表を事務局で作って頂きたいと依頼があった。

笹良委員より、県が調査の主体でやった場合、結果のデータを公表しない場合があるので、帰ってくるようにしてほしいと依頼があり、埴岡部会長より、事務局で増田先生がそういった課題を全部とりまとめてはどうかと提案があった。

増田副部長より、ロジックモデルに落とし込むときに、テーマは何にするのかと質問があり、県計画の目次に沿って落とし込むこととなった。

明日の協議会に、審議事項のその他で提案することとなった。

(6) 地域医療構想（ビジョン）の策定及び新基金と沖縄県におけるがん対策について

増田副部長より、地域医療構想（ビジョン）の策定及び新基金と沖縄県におけるがん対策について情報提供があった。

(7) その他

増田副部長より、前回協議会で承認された「地域の療養情報おきなわがんサポートハンドブックに関して、沖縄県からの予算が大幅減となり、改定版発行がなくなった件について」、「離島への相談支援・情報提供関連予算が大幅に減額され、その支援活動が縮小を余儀なくされている件について」、予定通り、協議会名で県に要望書を提案することとなった。

【報告事項】

1. 前回の議題の進捗状況について

増田副部長より、資料8に基づき、前回の議題に出た対応して行く一覧で、締め切りが守られていないがあるので、年間計画の進め方について議論を行いたいと意見があった。

埴岡部会長より、今日の審議事項を経て決定事項もあった中で、資料8のToDoリストで遅れているものでやり続けなければいけないものや、議論したもので残っているものなど、もう一度この表を作成して送るようにと依頼があった。

佐村委員より、部会の見直しについて、他の県のも参考にしたいと意見があり、情報を調べて送ることとなった。